

温州蜜柑並びにネーブル、オレンジの系統選抜調査

山下 淳・坂井 堅

1. 温州蜜柑優良系統選抜調査（第5年）

1. 目的

本県島嶼部の特殊な自然環境に適応する、温州蜜柑の優良系統母樹を選抜育成して、不良系の更新及び増殖を計り、今後の柑橘業の発展に資する。

2. 方法

本年度より母樹候補樹の現地調査は、一応中止し、昭和27年に母樹候補樹より採穂して、県柑橘繁殖園に高接を行ったものが、本年結果を始めたのでその果実について調査を行った。

3. 調査成績

第1表 温州蜜柑優良系統選抜母樹果実調査（調査月日 12月14日）

氏名	重量	果高	果径	果形比	果皮重	果肉重	果肉歩合	瓢ノウ数	種子数	
									完全	不完全
1. 中村盛三	74.20	4.08	5.91	1.45	16.90	57.30	77.2	10.3	0	0.1
2. 閑田浅一	110.15	4.55	6.93	1.52	27.35	81.80	74.3	10.6	0	0
3. 吉田正之	81.60	4.42	6.11	1.39	20.05	62.55	76.7	10.3	0	0.1
4. 牧本勘一	102.55	4.53	6.53	1.43	24.70	77.85	75.9	10.8	0.1	0
5. 水谷新三郎	87.15	4.35	6.31	1.45	22.45	64.70	74.2	10.1	0.1	0.1
6. 原口和三次	98.80	4.67	6.57	1.40	25.80	74.00	74.9	10.1	0	0
7. 横手善徳	97.10	4.53	6.58	1.46	23.20	73.90	76.1	10.5	0	0
8. 多保善之助	84.65	4.30	6.22	1.45	21.60	63.05	74.5	10.0	0.7	0.3

氏名	搾粕	果汁	果汁	果汁	果汁	リフラクト	枸エン酸	甘味比	果皮色	果実
	重量	重量	容量	比重	歩合	トメータ ー指数	%			
1. 中村盛三	10.40	46.9	45.5	1.03	63.2	9.4	1.01	9.31	+	+
2. 閑田浅一	21.90	59.9	58.4	1.01	54.4	10.0	1.06	9.43	+	+
3. 吉田正之	14.35	48.2	46.3	1.04	59.7	9.2	1.00	9.20	+	-
4. 牧本勘一	19.05	58.8	56.8	1.04	57.3	10.4	0.81	12.84	-	+
5. 水谷新三郎	14.80	49.9	48.5	1.03	57.3	10.0	0.82	12.20	+	-
6. 原口和三次	23.70	50.3	48.8	1.03	50.9	9.5	0.79	12.03	+	-
7. 横手善徳	16.00	57.9	56.0	1.03	59.6	9.8	1.09	8.99	+	+
8. 多保善之助	13.15	49.9	48.6	1.03	58.9	9.8	0.92	10.65	+	+

注 本調査は10個平均である。

4. 考察

高接樹の結果は、本年が初年度であるため、未だ樹毎に変動が多く従って果実の形質についても、母樹の

形質を大体受継では居るがやや信頼度が低いので、この調査成績を以て直ちに結論は出し難いが、本年度の成績並びに外観審査等により総合的判断を行うと、横手系が最も優良の如く思われる。来年度より高接樹の結果も安定するので、これについて引続き調査を行いたい。

2. ネーブル、オレンジ優良系統選抜調査（第4年）

1. 目的

県内に栽培中のネーブル、オレンジの芽条変異より、優良系を選抜せんとする。

2. 方法

県下において発見せる芽条変異2個体の果実について、母枝の果実との比較調査並び、それらの対照として、現在わが国において優良系と称せられて居る鶴久森ネーブルとの比較調査を行った。

3. 調査成績

第2表 ネーブル、オレンジ芽条変異果実調査

調査月日 31年2月7日

種別	重量	果高	果径	果形比	果皮重	果肉重	果肉 歩合	果皮 厚サ	瓢ノ ウ数	種子数		推定 重量
										完全	不完	
1. 丹下系ネーブル (芽条変異枝)	236.7	7.29	8.05	1.11	59.8	176.8	74.7	4.50	11.7	0	0	86.5
2. 丹下系ネーブル (対照)	136.5	5.99	6.63	1.08	36.2	100.3	73.5	3.87	11.0	0.3	0	56.7
3. 中田系ネーブル (芽条変異枝)	398.0	9.09	9.74	1.06	103.2	294.8	74.8	6.08	12.3	0	0	133.3
4. 中田系ネーブル (対照)	264.7	7.80	8.38	1.08	78.7	185.3	70.0	5.48	11.7	0	0	86.0
5. 鶴久森ネーブル	227.5	6.90	8.10	1.17	85.0	142.5	62.6	4.63	12.0	1.3	0.6	69.5

種別	果汁 重量	果汁 容量	果汁 比重	果汁 歩合	リフラク トメータ ー 指数	枸エン酸	甘味比	色 沢		果実 締り	肉質
								果皮	果肉		
1. 丹下系ネーブル (芽条変異枝)	90.3	87.3	1.03	38.1	42.0	1.00	12.00	+	+	+	+
2. 丹下系ネーブル (対照)	43.7	42.3	1.04	23.0	11.6	1.41	8.23	+	+	+	+
3. 中田系ネーブル (芽条変異枝)	161.5	157.3	1.03	40.6	9.8	1.25	7.68	±	+	+	-
4. 中田系ネーブル (対照)	99.3	96.3	1.00	37.5	11.2	1.21	9.26	+	+	+	±
5. 鶴久森ネーブル	73.0	71.3	1.02	32.1	10.2	0.77	13.25	+	+	+	±

4. 考 察

調査成績によると、果実の大きさにおいては中田系芽条変異が最も大きく、丹下系芽条変異が最も小さい。しかし、それをその母枝の果実に比較すると著しく大きい。次に糖分は丹下系が著しく多く中田系は劣る。酸度は中田系が最も強く丹下系がこれに次ぎ、鶴久森系は著しく少ない。従って甘味比は鶴久森系が最も高いがこれは酸度が少ないためであって、味は淡泊であり丹下系が甘酸相和し、味濃厚であって風味も良い。次に果皮、果肉の色沢も丹下系が最も秀れて居り、肉質においても然りである。なお結果率の現地調査では、鶴久森ネーブルが最も良く、次に丹下系がよい。以上を総合的に判断すると、丹下系は従来のネーブル、オレンジに比較して頗る優秀であって、鶴久森ネーブルと比較して、遜色なく、むしろ秀れて居ると判定し得る。